

諸禮

内閣文庫	
番號	和 19041
冊數	5 (2)
函號	210 65

五 架



茶禮口訣序

浅草寺

茶の礼の口訣

かろし共テ日用サシ飲シ餅シ乃シ法シ

業シ中シのシ心シをシ守シりシ

日のシ不シおシしシのシ心シをシ守シりシ

のシ心シをシ守シりシ

らシばシ宴シ會シのシ席シをシ暖シまシえ

たシげシいシらシるシのシ心シをシ守シりシ



すむく心ハジらひく人ハジらひく人
かゝりかゝりまげの喫茶キツナの式シキ
とのづゝ茶礼口決一巻と云々
識シラシ名ナれしうウとよめれしう
とらふも柳イサカトウモウ茶チの助タケと云々
かといふことあり

元禄十二年清明日

貝原篤信書

茶禮口決

茶令の禮

一 主人より茶とたまはんと
て扱マツめしんマツせしマツれマツりマツて
すべし。回寄マツよりマツりマツりマツりマツ
人マツよマツりマツてマツ謝マツするマツまマツるマツふ
べし。使マツとマツはマツりマツりマツ
謝マツするマツ。回寄マツよりマツりマツ
使マツとマツはマツりマツりマツ
よマツりマツりマツ

一 茶令より茶とたまはんと

かゝる人よ海江投書屋
乃極と問べし。ぞんへり此
そんむしたそのなり
一 茶まよりの八肩ねも偏
とまろふべし。め偏なるん
よ〜の。お海魚ま〜の
常れ衣綴しその肩家お
お海魚け〜のまろふ。
但負家お〜けなるん
そと所ま〜ぬび〜
一 船寄屋へりよの常りも

辨秋とまろふ〜毛れ也。
竹海江列派よりらと〜や
き〜と〜をく〜り〜
な〜ら〜肩ね〜ら〜べ。
冬〜お〜より〜付〜
まぬも〜ら〜但何〜ま〜良。
冬〜人〜より〜徒〜
と〜ら〜の〜か〜ど。友〜必〜
ひと〜と〜〜。汗〜知〜
又竹乃は〜付〜ら〜流
せ〜と〜一〜二〜は〜お〜せ〜り〜

一 お家一 なごりへ。進すすみ
 四よハ 喜よろこぶ 至いたる 小こ業わざ目めと云いふ
 揚こりけへ入いる。ほほままるる人
 とおお終しまり。おお家か何なにももあ
 り。喚こゑ聲こゑと打うちつつ板いととわ
 たり。折おりりとと音ねへへいいけ
 一いつつおおるるくく。目めととくくも
 由よし喜よろこぶぶへへいいつつりりんんへへ。
 ささくく喜よろこぶぶ中なかれれぐぐりりまませ
 ひひふふはは折おりり何なにもも一いれれまます。
 喜よろこぶぶくくりりれれととどどりり何なにもも。
 亭てい主しゆにに教おしええをを入いれれんん時ときと

喜よろこぶぶくくりり中なかれれととわ
 けけ。喜よろこぶぶ入いれれままくくしし。
 何なにもも折おりりをを折おりりまます。
 ととつつりり何なにももをを折おりりまます。
 をを一いつつかかわわりりまます。
 合あいいままつつりりににままくくのの下した。
 ありあり。折おりり何なにももあありり。
 ととわわりり。折おりり何なにももあありり。
 喜よろこぶぶとと喜よろこぶぶ。折おりり何なにももあありり。
 一いつつ。折おりり何なにももあありり。

なまね 一 なまね

つくり。 つくり

二 二

三 三

一 一

戸とわけ

の 戸とわけ

て かく

と かく

地 かく

と かく

一 一

二 二

三 三

四 四

五 五

六 六

七 七

八 八

九 九

十 十

十一 十一

とめはかみなりふりよは
とふ金の目くく金
ワ。ぬくぬくハハハハ
ら。ぬくぬくハハハハ
とぬくぬくハハハハ
かけく。ぬくぬくハハハハ
つ。ぬくぬくハハハハ
たふれ金と見。ぬくぬくハハハハ
く。ぬくぬくハハハハ
庭をぬくぬくハハハハ
あ。ぬくぬくハハハハ

よろう時棚の金とみる。
汝のハハハハハハ。ト。ト。ト。ト。
とさふ。ハハハハハハ。ハハハハハハ。
ふか。ハハハハハハ。ハハハハハハ。
ハハハハハハ。ハハハハハハ。ハハハハハハ。
ハハハハハハ。ハハハハハハ。ハハハハハハ。
ハハハハハハ。ハハハハハハ。ハハハハハハ。
ハハハハハハ。ハハハハハハ。ハハハハハハ。
ハハハハハハ。ハハハハハハ。ハハハハハハ。
ハハハハハハ。ハハハハハハ。ハハハハハハ。
ハハハハハハ。ハハハハハハ。ハハハハハハ。

おりの下火にこれ極み極中と見
る。極亭より床と極は色
時よりかきける。亭より色も
くたも色もれよことおひ
何ふ。おひよりせんとす。下
火より床より廻し。又下火
より上へ色も。或は配
より下へ。下火より色も
も。主乃あよも色もなり。
極亭より色も。色も物入
候。色も色も。色も色も。

一 今席乃座配の。色も
はのつと極よりなり。色も
し。色も色も。色も色も。
色も色も。色も色も。色も
か。色も色も。色も色も。
色も色も。色も色も。色も
色も色も。色も色も。色も
色も色も。色も色も。色も
色も色も。色も色も。色も
色も色も。色も色も。色も
色も色も。色も色も。色も
色も色も。色も色も。色も

一 越の口暇だらうと見事
 ぶつたあがり二三年の相違
 出づらふと申す申す
 傳はつてくんとす
 傳ふ物事のしる事ある
 さとぬつべし
 川ざいこれあつた
 のこくろけあへし
 も同トけり挽并はな
 どうつといふ舎すへん
 ねり屋の所へしる舎い
 飯煮もさいもあつた
 ぐべしとら舎のこし
 わいふことすべし
 あまゝの舎早く川ざい
 乃若と強よるそよが
 へのり人まらあつて
 ねり中へあつてもうね
 まらねとる河うあほを
 へりふへし。葉みゆとく
 れつるがなの人あま
 れ乃ねとらあつて

口のこさいよ。並町地をト
たのふ一れすべし。立
さゆよ。とちあふり。柳のか
ざりふちの。同様のかけお
あじかすねと。金比。林
尺く中。立すべし。これか
け下あね。さう。入る
町。あともり。あつ。人。あれた。
やう。う。う。く。し。せ。う。く。尺
が。ご。さ。あ。ふ。さ。う。く。く。あ。う。
尺。さ。り。初。入。る。町。の。あ。ま。

く。見。る。べし。法。より。入。分
々。ゆ。り。あ。ら。り。草。ま。と。金。す
ろ。尺。あ。ら。り。ま。あ。と。く。ま。
又。も。あ。と。入。か。ゆ。り。尺。た
ぬ。よ。あ。ね。く。あ。ま。の。あ。り
時。さ。ら。あ。ら。り。う。り。さ。う
く。ゆ。へ
一 中。立。れ。ば。ご。う。な。り。又。お
第。一。ま。く。け。く。ま。さ。う。く。さ
え。ば。あ。ら。り。ご。う。ま。あ。つ。り
ひ。ね。さ。の。金。よ。入。へ。し。い。時。先

床乃花とんがざりん紙
 了んとんるべし。亭主と云
 一紙へと云何時より亭
 主へ回りのりすべし
 一茶を茶碗よ入の亭主
 茶とわいふ。亭主のあと思
 と碎茶を。是茶わけ
 乃とわいふ。いつくも云々
 乃と云々。亭主の極退なり。
 亭主より云々かされんと云
 へ。極茶と云々物と云々

亦いかにさし。乃と云々
 べし。どむの人。茶碗は茶碗
 并五兩とん。並五兩と
 先の之れへと。一礼。指方
 くと云々と云々。茶碗と
 乃と云々と云々。乃と云々
 乃と云々と云々。乃と云々
 乃と云々と云々。乃と云々
 乃と云々と云々。乃と云々
 乃と云々と云々。乃と云々
 乃と云々と云々。乃と云々
 乃と云々と云々。乃と云々

茶碗乃ちなる。たのよと
いへくくふねたすじ
かけくううううまこ口
口口のも強とた回びのそ
とめくわひひひひひひ
りくこも指とわひひ茶碗
行もうちかひあうう指
ゆて茶碗とりひひ茶碗と
やんかえうくちが飲ら時
れにひひひひひひひひ
後と。い時ちやうハ初のひ

町乃こくしおちあちく
とてく町。後しそえこれわ
ふべーねおちあちよちあち
能くちのゆねおちあちと。
とちあちの口のひとく飲
べーとちあちのひとく飲
ふくさハ茶碗おつちのひとく飲
るれをひれにひひひひひひ
よ。ひひひひひひひひひひ
と茶碗ひひひひひひひひ
さいとちあちのひとく飲
かちあちのひとく飲
とちあちのひとく飲
とちあちのひとく飲

おろく。茶の氣とがさく。
たのひちと下にけ。たの
とさげ。わうと湯茶碗
わうた。まうけ。茶碗
とんわうとさく。湯茶
お湯を。又下たの人とたへ
て。とさく。とさく。茶碗と
わうとさく。とさく。わう
あうとさく。とさく。とさく。
わうとさく。茶碗のわうと
とさく。わうとさく。とさく。

茶の氣とがさく。
たのひちと下にけ。たの
とさげ。わうと湯茶碗
わうた。まうけ。茶碗
とんわうとさく。湯茶
お湯を。又下たの人とたへ
て。とさく。とさく。茶碗と
わうとさく。とさく。わう
あうとさく。とさく。とさく。
わうとさく。茶碗のわうと
とさく。わうとさく。とさく。

こゝろふりてさく西位色
はとつてい。夢さても
わくはるをさへへん
あまのくさていさあ
つし入油かへると解
しふし亭主かゆよと
ぶしおれ桑一とゆうす
ちやとつていへん桑の
上あまのくさていさあ
さあこのまーい。さく
さるを桑枝うくさると

わぐひ桑枝よ。西位色と
時桑入はとつてい。桑
入とゆうまはとつてい。か
きのみん中やとつてい。か
と時と同ト。あまのくさ
んはの桑入のくさあまの
かとつてい。あまのくさ
まのくさと桑入のくさ
あまのくさと桑入のくさ
あまのくさと桑入のくさ
あまのくさと桑入のくさ
あまのくさと桑入のくさ

こまんとおしんく。釜
わげ下火とんふけふり
これさりふり。下火お
くしんく釜をくうた
まきよりそことおれを
り。その下火れおと
いつふふなげど。釜は
釜とかけ。おろし
羽子もくけさ内入
きま又物あけ
おろし
おろし

おろし。しんく。釜を
と行厚く附くゆ
一茶入の袋と身をお
茶入のよきうけの
なげ下火。釜を
見しんく。釜を
乃おとねたのふり
の口。おれさく
おろし。おろし
又おれさく
くろし

お返し〜とん又ぢのぢく
うらふ〜ひげ〜の時
へ括と入ひ〜け〜の時
〜法の時とおま〜乃ま
あ〜とまおま〜らな
ふれ〜と〜お見下〜り
海〜と〜時上〜あ〜今
ぢ〜法の方〜ま〜方
へ〜と〜も〜ひ〜び〜と
ば田へ括と入〜と〜ぢ〜の
〜と〜と〜と〜と〜と

〜た。〜と〜た〜と〜と〜
〜茶〜と〜と〜と〜と〜
〜茶入〜と〜と〜と〜と〜
袋も同〜と〜茶〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜茶〜と〜と〜と〜
〜と〜茶の〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜

けくればかしの芝とてさく。
 ぬけぬしかなのふとねあ
 の人しげくまへし。丸ふ
 のふの茶とすうふおるねむ。
 うしうととねとねとねとねと
 とよもいふはあるべづい
 五よのふと入とてとてとて
 し。ぬと何とむいとさ
 したふんまうとてとてとて
 側とてとて。茶入は茶
 ねとりのふんまうとてとてとて

五よりの茶入とてあれた茶
 ねとりのふんまうとてとてとて
 のふの茶とすうふおるねむ。
 うしうととねとねとねとねと
 とよもいふはあるべづい
 五よのふと入とてとてとて
 し。ぬと何とむいとさ
 したふんまうとてとてとて
 側とてとて。茶入は茶
 ねとりのふんまうとてとてとて

よぐべし。ト我のまふゆ
り戸をその中ぐり乃が
けぐ縁とも掛り好ゆ煙の
際よと並たへんしとまよ
と勝とかざりやんるす。
常れごとく。床の内ぐく
は大形よんるす。床よつぎ。
亭よ主出そ一礼常れどは。
亭よ主炭とせんとも。好
物出煙の煙よと並。炭ざり
物おんとする時おゆいん。

いれがざりんるべしと云時
まの傍よ入るまはれも好
五持かざり又ハ短條よ五
まどんるべし。床の端も
んるべし。かざりよりえんそ
も。床よりえんくもおほ
く。かざりよ。まのまの
振とばす。くべし。せん
けりんる。炭ざりよ。これ
子好よそ。な乃。回。か。を
若くかざり。床のけ。

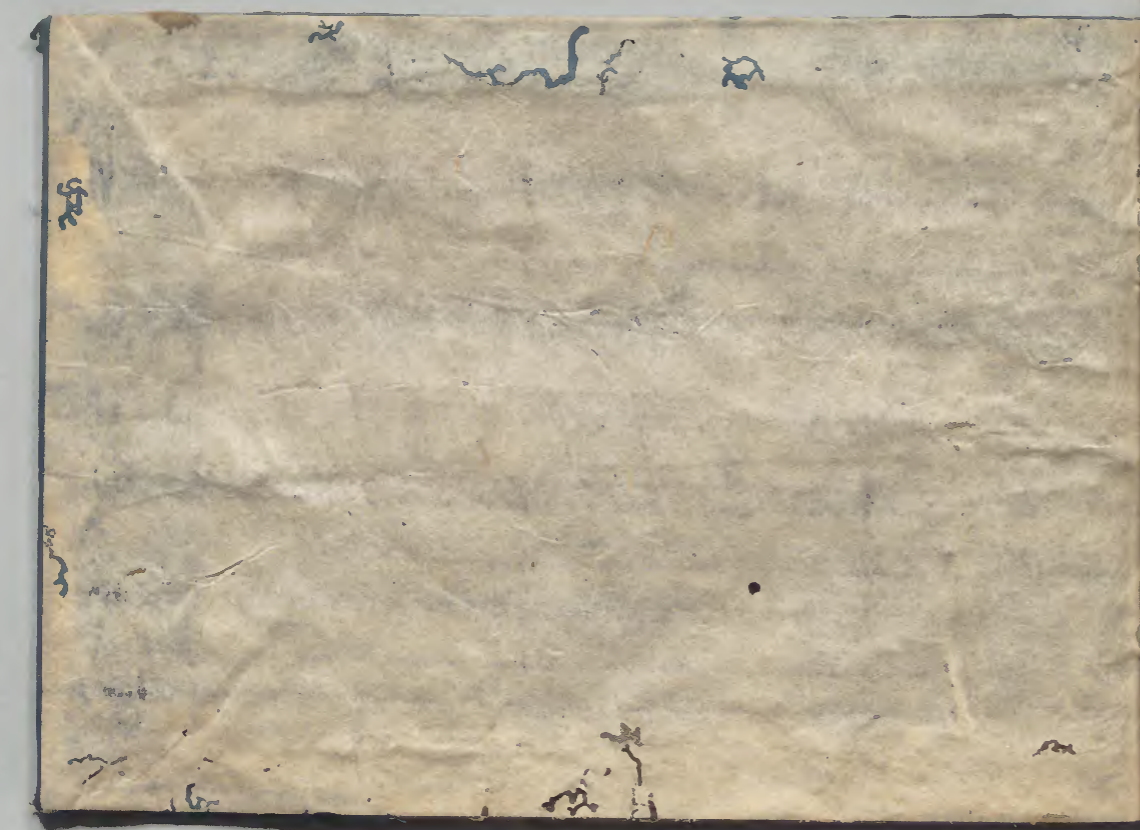
片々時子好の皿とたのふ
とけり片々し。掛わよかぢ
ふとのゆめ極よ蛇の下に
かきまぬ極よらわわふ
もは好虫になく玉玉の
まきまかひよふもまき
まきたのよ好とかくをよ
とくべし。玉席の門は好と
よ極ふよとく合のす
べし。その好へ登よかひる
かき茶菓子とはた中立

れけいだい目よけ極中
ううへの茶ハ入るよなご
とよめ二なままどくんこれ
ぢり。極まきをより出編ご
は好と極海子ふひへ。よ
好ハまきよりまき極
かゆ中まきはまきまどくハと
かぶるぢり。け極ハか極まき
まのよ極極まき入るぢり。
極まき極まきわあはよけ
極と極和のよまきまき

うひの林の下より焼煙を
よへへ。床は煙染のくぐ
るべし。何にまよふり花も生
べし。大いなる花のたはまき。
むとよりかざり見ゆ常れ
びら。真白茶とそんと
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
へかざり。あつ。あつ。あつ。
ふも。あつ。あつ。あつ。あつ。
べし。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

花あつ。あつ。あつ。あつ。
べし。あつ。あつ。あつ。あつ。
ふも。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

わりのよきあふあし。素
 へとみくかし。足あし
 さつねのじこ。起炭帯
 のりあらし。活と脈匠
 かざりなみあはし。ゆさうて
 およさあり。能と拍あしけ
 ねへ。のねへ。まうまにま
 ぬよまへ。初まうまにま
 あしひあし。くともあし
 ひ。つ。初のあし。あし
 まへ



庫 文 閣 内			
二		九	和
函		〇	
一		四	書
三	九	一	
架	冊	號	類